

すいとう

水痘(みずぼうそう)ワクチンのお知らせ



水痘ワクチンは、水痘という5歳までに約80%の子どもがかかるといわれる感染力の強い疾病を予防するワクチンです。1回の接種で重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種で軽症の水痘も含めて、その発症を予防できると考えられています。

【水痘ワクチンの接種対象者・接種方法などについて】

生後12か月から生後36か月に至るまでの間にある方。(1歳から3歳の誕生日の前日まで)

※すでに水痘にかかったことがある方は対象外になります。

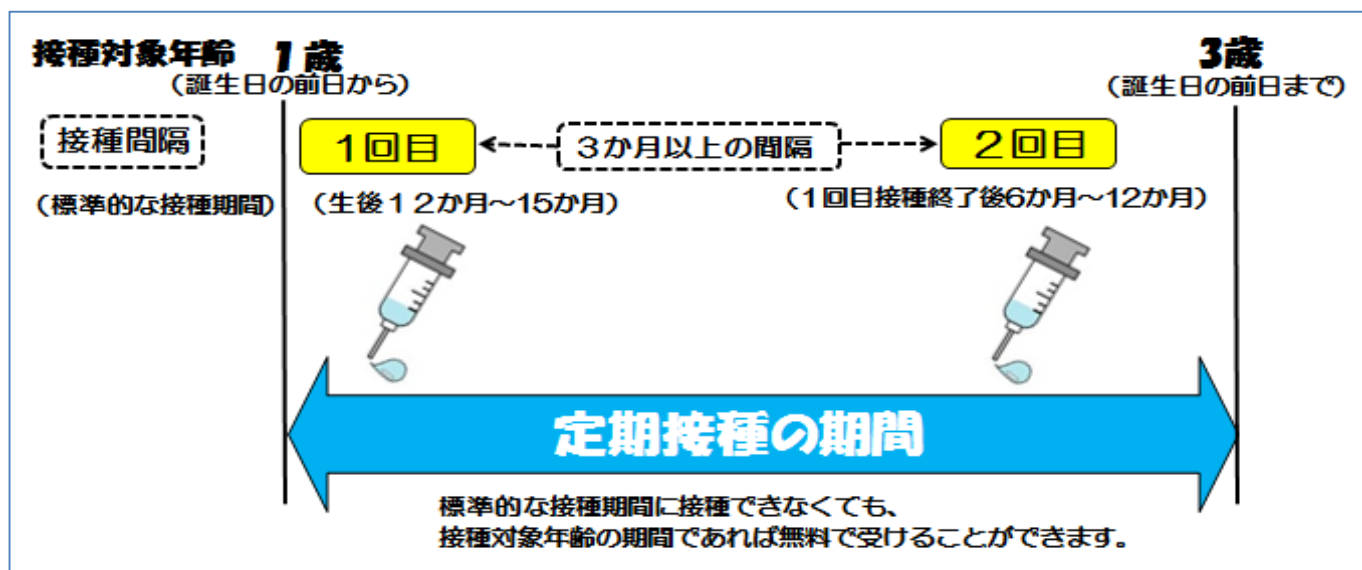
[接種回数]

3か月以上の間隔をおいて2回皮下に接種する。

[標準的な接種期間]

1回目 生後12か月から生後15か月に至るまでに行う。

2回目 1回目の接種終了後6か月から12か月に至るまでの間隔をおいて1回行う。



【予防接種の受け方】

[接種前] 大阪市内の委託医療機関に電話で接種日時等を確認します。

委託医療機関は大阪市ホームページ(<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000282789.html>)か、希望する医療機関の所在地の保健福祉センターでご確認ください。

[接種当日] 母子健康手帳を持参し、医療機関にある予診票及び実施申込書に必要事項を記入します。体温を測定し医師の診察により接種できるかどうかの判定を受けた結果、保護者が同意(サイン)をして接種を受けます。

【予防接種を受ける前に】

予防接種は体調の良い時に受けてください。気になることや、わからないことがあれば医師に相談し、十分に理解したうえで接種を受けましょう。

【水痘の特徴とワクチン及び副反応】



<p>病気の 特徴</p>	<p>【感染経路と潜伏期間】 患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスにより空気感染、飛沫感染、接触感染します。潜伏期間（感染してから症状が出るまでの期間）は約2週間です。</p> <p>【症状】 主な症状は、発疹、発熱です。発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するといわれています。一般に水疱の数は症状が出てから数日以内に250～500個以上に達します。発熱は通常38℃前後で2～3日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれんを合併することがあります。</p> <p>【合併症】 まれに肺炎、気管支炎、肝炎、皮膚の細菌感染症、心膜炎、小脳炎、髄膜炎、血小板減少性紫斑病などがあります。</p>
<p>ワクチン</p>	<p>日本で開発された生ワクチンで、WHOにより水痘ワクチン株として最も望ましいと認められた水痘-帯状疱疹ウイルス（岡株）から製造されています。世界の国々で導入されており、予防効果は、1回の接種で通常80～90%以上の抗体陽性率が認められています。また、問題となる副反応は認められていません。</p>
<p>副反応</p>	<p>稀に接種直後から翌日にかけて、過敏反応（発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱等）や接種部位の発赤、腫脹、硬結等があらわれることがありますが一過性で、数日中には消失します。</p>

【予防接種を受けた後の注意】

- 接種を受けた後に、急な副反応が起こることがありますので接種後30分間はそこで様子を見るようにし、30分たってから医療機関を出るようにしましょう。
- 接種後は副反応の出現に注意し、接種部位の腫れ、高熱、けいれん（ひきつけ）、その他変わったことがあるときは、すみやかに医師の診断を受け保健福祉センターに連絡してください。
- 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射部位をこするのはやめましょう。
- 接種当日は、体調の変化に気を配り、激しい運動はさけましょう。



【各区保健福祉センター問い合わせ先】

保健福祉センター	電話番号	保健福祉センター	電話番号	保健福祉センター	電話番号
北区	6313-9882	天王寺区	6774-9882	城東区	6930-9882
都島区	6882-9882	浪速区	6647-9882	鶴見区	6915-9882
福島区	6464-9882	西淀川区	6478-9882	阿倍野区	6622-9882
此花区	6466-9882	よどがわく	6308-9882	住之江区	6682-9882
中央区	6267-9882	東淀川区	4809-9882	住吉区	6694-9882
西区	6532-9882	東成区	6977-9882	東住吉区	4399-9882
港区	6576-9882	生野区	6715-9882	平野区	4302-9882
大正区	4394-9882	旭区	6957-9882	西成区	6659-9882